

【活動報告】

21世紀日韓関係の展望と課題

Prospects and Tasks For Japan-Korea Relations in the 21st Century

申 景 浩*

要約

日本と韓国は心情的には親密な関係を持ちながら、歴史的には非常にネガティブな観点を持つという複雑な関係に置かれていることが事実である。個人的には連帯感を持ちながら、お互いの共存意識を形成するにはかなりの隔たりが存在する。また、地理的な近さや政治、経済、社会的な関連性を取り上げ、日韓協力の必要性を強調する場合もある。冷戦期には、日本と韓国の協力関係は反共イデオロギーに基づいた日米韓連帯構築のための政治と安保的な理由が中心であったが、脱冷戦期以降は経済、社会的な分野に拡大された。2000年以降の中国の浮上にもかかわらず、日本はいまだ世界の経済大国であり、日韓両国は重要な交易国で間違いない。何よりも日韓両国は、アジアで唯一市場経済や人権、法律の価値を共有する国である。

また、東アジアをめぐる国際関係の背景も無視できない。例えば、中国の浮上と一帯一路による米中関係の悪化の中で、日本が提案したクアッド（Quad）は米韓同盟、日米韓関係、日中関係、日米同盟などにおいてとても重要な事項である。

こういう状況の中、日韓関係は過去数十年間にわたって歴史問題、領土問題などの緊張要因が発生する度に多くの困難に遭遇してきた。このため、日韓協力の必要性を自覚しながらも協力と葛藤を繰り返してきた。日韓の歴史問題が外交の重要懸案となり両国の関係が悪化した時も、人的交流は継続され両国の文化交流も絶えず続いてきた。

そして、両国の文化は既に相手国の社会全般にわたって拡散、定着していると言える。

従って本論文では、日韓両国において最も友好的な関係を作ったと評価されている1998年「21世紀の新しい日韓パートナーシップ共同宣言（金大中・小淵共同宣言）」以降から現在までの日韓関係を中心に話したい。

キーワード：日韓関係、緊張要因、日韓協力の必要性、日韓パートナーシップ共同宣言

* 国士館大学21世紀アジア学部教授

事業名：第15回国際学術シンポジウム・戦後日韓外交の変遷と今後の展望

日 時：2021年4月30日（金）13：30～17：30

場 所：東義大学中央図書館ソクダンコラボラウンジ（対面及び非対面）

主 催：東義大学東亜細亜研究所、韓国日本近代学会

主 管：人文社会研究所支援事業研究チーム

後 援：韓国研究財団

プログラム：

時間	内容	司会
13：30～13：40	開会の辞：李京珪（東義大学東亜細亜研究所 所長）	林相珉 （東義大学）
13：40～14：20	主題1：21世紀日韓関係の展望と課題 発 表：申景浩（国士舘大学 教授） 討 論：李吉遠（東亜大学）／ 金延埴（慶北大学）	
14：20～15：00	主題2：日韓においての歴史認識問題の現状と本質 発 表：緒方儀広（弘益大学経営学部教授） 討 論：李修京（東京学芸大学）／ 金雄基（翰林大学）	
15：00～15：10	休 憩	
15：10～15：50	主題3：日韓において文化財返還問題は何故起きるのか 発 表：嚴泰奉（翰林大学日本学研究所HK研究教授） 討 論：蘇明仙（済州大学）／ 李洪烈（東明大学）	鄭英美 （東義大学）
15：50～16：30	主題4：外交文書から見た1950～1960年代の朝鮮学校に対する認識 発 表：李杏花（東義大学東亜細亜研究所 研究教授） 討 論：朴熙永（ハンバット大学）／ 嚴基權（韓南大学）	
16：30～17：30	総合討論：李吉遠、金延埴、李修京、金雄基、李洪烈	李智賢 （東義大学）
18：30～20：30	レセプション	

1. 日韓関係の変化様相（最近20年間）

1) 日韓関係の和解ムード（1998－2012）

- ・金大中 小淵 日韓パートナーシップ宣言（図1）
➡ 韓流、2002年ワールドカップ共同開催（図2）
- ・日韓協力を通じて歴史問題などを管理できるレベルに抑制



図1：1998年10月 金大中 小淵 日韓パートナーシップ宣言
出典（連合ニュース）

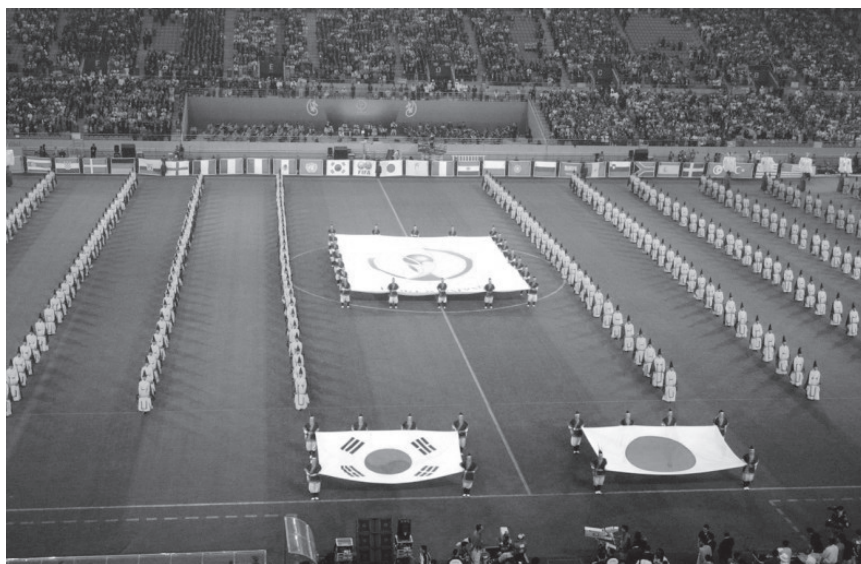


図2：2002年日韓ワールドカップ開会式
出典（韓国民族大百科）

2) 日韓関係の悪化（2012－現在）

- ・歴史問題と領土問題などによる長期間の関係悪化（図3、4）
- ・日韓関係の回復が不透明で、ニューノーマルの定着の恐れがある。



図3：李明博前大統領 独島訪問
出典（連合ニュース）



図4：平和の少女像
出典（連合ニュース）

2. 国際関係の中での日韓関係（米国ジョーバイデン政権誕生）

- ・2021年3月16日、日米国務、国防長官（2＋2）会談
- Quad（クアッド）による中国に対する封鎖網の構築、日米同盟を基軸とした東アジアの戦略が浮き彫りに。（図5、6）

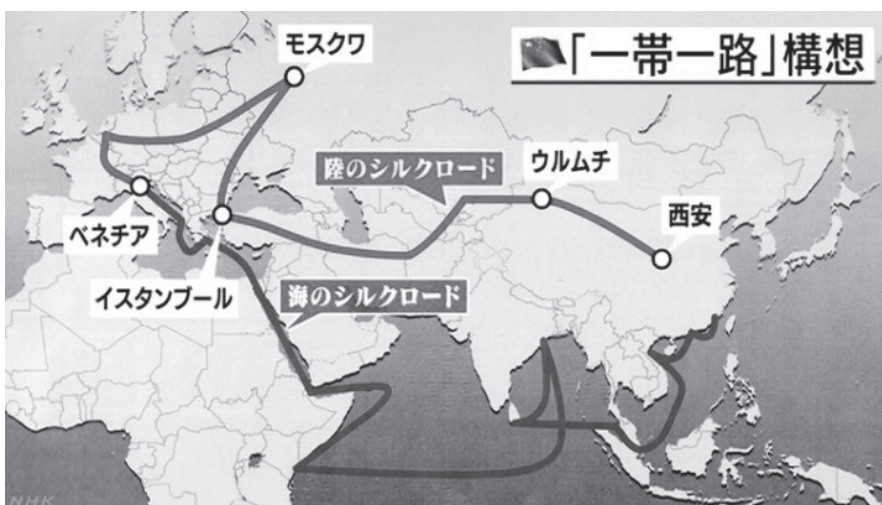


図5：中国の「1帯1路」構想
出典（NHK）



図6：Quad- 中国牽制を目的に構成された4カ国協議体
出典（NEWSIS）

- ・2021年3月18日、韓米 2 + 2 会談
 - 対北政策を中心に朝鮮半島の非核化を強調、クアッドと新南方政策共助の可能性を確認
- ・2018年6月、シンガポール米朝首脳会談と2019年2月、ハノイ米朝首脳会談決裂からの教訓
 - 日韓関係の改善なしでは、北朝鮮に対する政策の進歩や成果を得られないことを示唆
(ジョン・ボルトンの回顧録)

3. 日韓関係の現況

1) 感情的な対応の増加と相互を敬遠する現象の深化

- ・「和解・癒やし財団」解散
- ・日本の通商規制、ジーソミア終了宣言
- ・相互を軽視する風潮の加速化
- ・韓米日共助体制の弱化

2) 歴史問題の再浮上と日本の対応

- ・日本は、1965年の請求権協定に対し国際法違反と見なしている
- ・大法院判決の強制執行は不法であるため、差押財産の現金化が現実になると相互に報復しあうことが予想される
- ・両国の協力が必要とされる分野まで悪化の一途をたどっている
- ・日本人の歴史認識を高める必要があるが、日本の戦後世代は歴史に対し無知である

4. 日韓関係の悪循環の固定化

- ・ 長期の関係悪化による反日、嫌韓現象の深化
- ・ 日韓両国国民の相互好感度が著しく低下
- ・ 日本の通商規制措置は、グローバル供給網で連結された日韓経済関係を威嚇
- ・ 経済報復による韓国での反日感情増加 (NO JAPAN、観光、貿易に影響)

5. 日韓関係の悪化の背景

- ・ 日本の主流である戦後世代は韓国の戦後世代に比べ近代史に対する理解力が不足
- ・ 日韓両国の法律と正義に対する認識の違い
- ・ 両国政治家のコミュニケーション不足と世論追従現象
- ・ 日本国内での過去の問題に対する疲労感が、韓国に対する疲労感に変質
- ・ 中国の浮上による日韓認識の違い (韓国の中国傾斜論)
- ・ 言論とソーシャルメディアが両国国民の誤解と偏見を増幅させ、国民感情の悪化を助長
(例: ネット右翼)

6. 歴史問題の解決と和解のための努力

- ・ 強制徴用問題は、高度の政治的性格を帯びているので、外交的な努力が必要
- ・ 韓国政府が解決策を提示し、日本もこの問題に対して現実的な協力の検討が必要
- ・ 歴史問題の和解は被害者と加害者の両者で行われるため、加害者の反省と被害者の寛容が必要

7. 日韓関係の正常化のための提言

- ・ 日韓関係の悪化を防ぐために両国の積極的な努力を通じ、金大中・小淵日韓パートナーシップ宣言のレベルまでに日韓関係を正常化する
- ・ 真剣に外交的な解決を模索し、強制徴用と通商規制、GSOMIA問題を解決するためのロードマップを構築
- ・ 歴史の問題と懸案を分けるツートラック方式のアプローチが必要
- ・ 韓国政府、日本政府は両国の国民にお互いの重要性を理解させる努力が必要
- ・ 米中の対立の中で、東アジアの平和と安全に対する日韓協力方案が必要

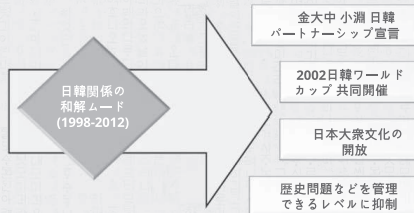
21世紀日韓関係の 展望と課題

申景浩 (国士舘大学)

目次

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 01 日韓関係の変化様相
(最近20年間) | 04 日韓関係の悪循環の固定化 |
| 02 国際関係の中での
日韓関係 | 05 日韓関係の悪化の背景 |
| 03 日韓関係の現況 | 06 歴史問題の解決と
和解のための努力 |

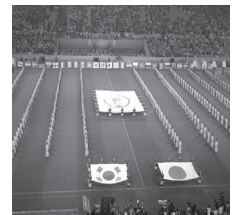
1.日韓関係の変化様相 (最近20年間)



日韓関係の和解ムード



1998年 10月 金大中小
日韓 パートナーシップ宣言



2002年日韓ワールドカップ

日韓関係の悪化

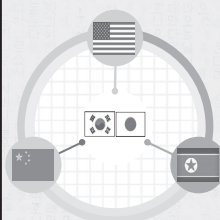


2012年 8月10日
李明博 前大統領 独島訪問



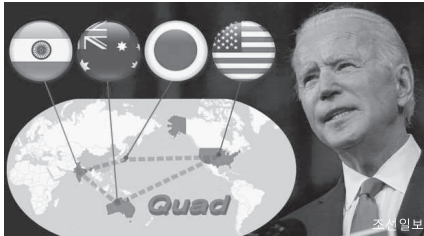
平和の少女像

2.国際関係の中での日韓関係 (米国ジョーバイデン政権誕生)



- 2021年3月16日、日米国務、国防長官(2+2) 会談
中国に対する封鎖網の構築(Quad)
日米同盟を基軸とした東アジアの戦略強調
- 2021年3月18日、韓米 2+2 会談
- 対北政策中心と朝鮮半島の非核化を強調
クアッドと新南方政策共助の可能性を確認
- 2018年 6月、シンガポール米朝首脳会談と
2019年2月、ハノイ米朝首脳会談決裂からの教訓
- 日韓関係の改善なしでは、北朝鮮に対する
政策の進歩や成果を得られないことを示唆

クアッド(Quad)



中国牽制を目的に構成された4カ国協議体

3.日韓関係の現況



3.日韓関係の現況

過去問題の再浮上と日本の対応

強制徴用の大法院判決に対する認識

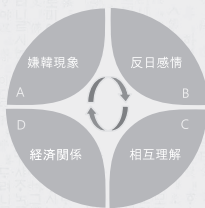
- 日本は、1965年の請求権協定に対し国際法違反と見なしている
- 大法院判決の強制執行は不法、差押財産の現金化→相互報復予想
- 三権分立に対する両国の認識の違い

歴史認識

- 日本人の歴史認識を高める必要がある
- 日本の戦後世代は歴史に對し無知
- 両国の協力が必要な分野にまで悪化の一途をたどっている

4.日韓関係の悪循環の固定化

- A) 長期の関係悪化による嫌韓現象の悪化
- B) 経済報復による韓国での反日感情増加 (NO JAPAN、観光、貿易に影響)
- C) 日韓両国国民の相互好感度が著しく低下
- D) 日本の通商規制措置は、グローバル供給網で連結された日韓経済関係を威嚇



5.日韓関係の悪化の背景



6.歴史問題の解決と和解のための努力

- 01 強制徴用問題は、高度の政治的性格を帯びているので、外交的な努力が必要
- 02 韓国政府が解決策を提示し、日本もこの問題に対する現実的な協力の検討が必要
- 03 歴史問題の和解は被害者と加害者の両者で行われるため、加害者の反省と被害者の寛容が必要

日韓関係の正常化のための提言

- 01 日韓関係の悪化を防ぐために両国の積極的な努力を通じ、金大中・小淵日韓パートナーシップ宣言のレベルまでに日韓関係を正常化する
- 02 真剣に外交的な解決を模索し、強制徴用と通商規制、GSOMIA問題を解決するためのロードマップを構築
- 03 過去の問題と懸案を分けるツートラック方式のアプローチが必要
- 04 韓国政府、日本政府は両国の国民にお互いの重要性を理解させる努力が必要
- 05 米中の対立の中で、東アジアの平和と安全に対する日韓協力方案が必要

감사합니다

ありがとうございます。